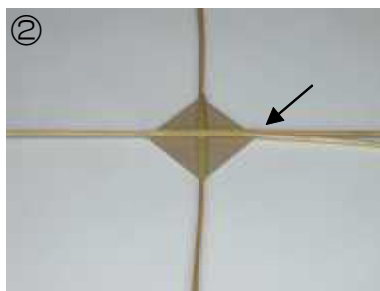
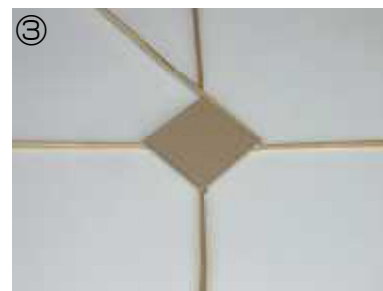




① 麦わらの太いところを切ったものを2本用意し、切れ込みを入れ十字にし、厚紙を4角に切ってはりつけます。



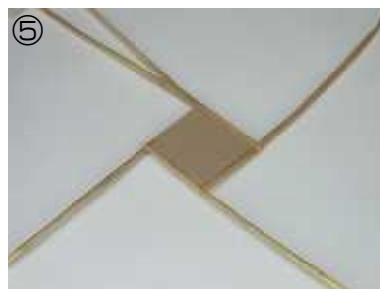
② それぞれの切り口に麦わらを差しこみます。1か所には2本差しこみます。



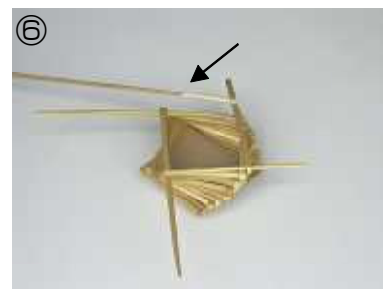
③ 裏返しにして、2本差したうちの1本を次の麦わらの重ねるように折りまげます。



④ 同じ要領で折りまげます。ほたるかごは、これの繰り返しで編みあげていきます。



⑤ 1周するとこのような形になります。続けて編んでいきます。



⑥ 麦わらの長さが短くなったら新しい麦わらを継ぎ足していきます。小さくなるようにしていきます。



⑦ 小さくするには、内側に麦わらを重ねていきながら編んでいきます。



⑧ 割れている麦わらや、折れてしまっても気にせず、新しい麦わらを差し込んで編み続けます。



⑨ 最後は三つ編みにして持つところを作ります。(いろいろ工夫してください)



⑩ 完成品です。子どものころ父親に教えてもらったものですが、ほんとに蛍をとりにいくときに持っていったのかの記憶はありません。入れた蛍はどこから出したのでしょうか？



3本の麦わらから編みあげていくやり方もあります。麦わらのほたるかごは、子どもたちや若いお母さん方に伝えていきたいことのひとつです。

\*裏面のほたるかごの作り方(2)をご覧ください。

写真は大麦の麦わらです。麦を栽培する農家が少なくなり、麦わらが手に入りにくくなっています。

麦の仲間の「燕麦」が使えます。園芸店で売っている猫草が燕麦なので種を買って自分で庭に植えてみてはどうでしょうか。

ほたるかごの会

連絡先 〒319-2211 茨城県常陸大宮市岩崎272-4

金子卓 電話 0295(52)2422

メール kaneko-s@jcp-net.jp



完成品です。余分な麦わらは切りとります。

3本の麦わらからはじめる編み方を覚えるといろいろと楽しめます。小さくつuckingペンダントにする、平らに編んでブローチに、中に試験管をいれて一輪挿し等…

3本を使うと螺旋の五角錐になりますが、途中で1本抜けば4角錐になります。

麦わらによっては、途中でわれるときがあります。そのときは角で切って新しい麦わらを差し込んで編み続けます。

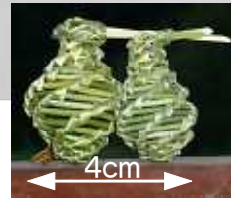
できあがったら、最後の部を乾くと透明になる接着剤をぬってあとでほぐれません。

今の季節、麦はありませんが、近くにある野草の中にも使えるものがあります。試してみてくださいでしょうか。

金子卓 kaneko-s@jcp-net.jp

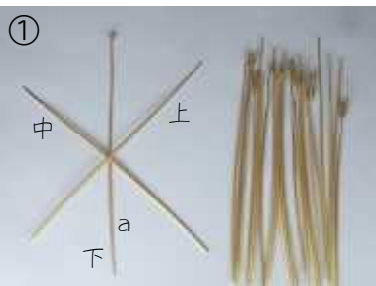
麦わらの「9条」バッジ

これが作れるようになればほたるかご作りは完了です。だいたいのは作れます。

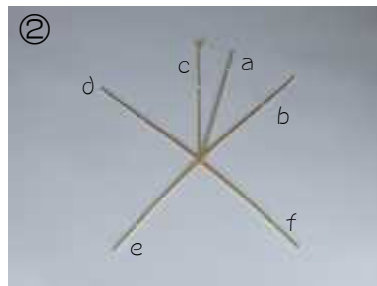


野草3本だけを使い継ぎたさずに作ったミニほたるかご

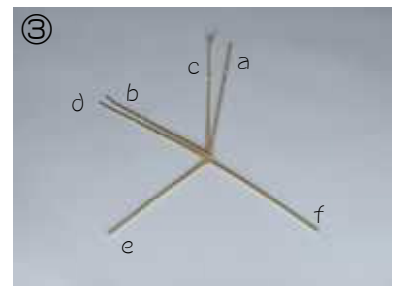
(左写真のように普通に使用しますが、継ぎたすには工夫がいります)



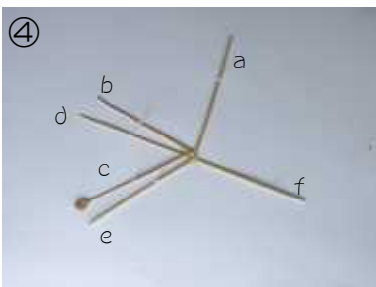
麦わらの穂先部分を20~30本用意し、3本を写真のように重ねます。



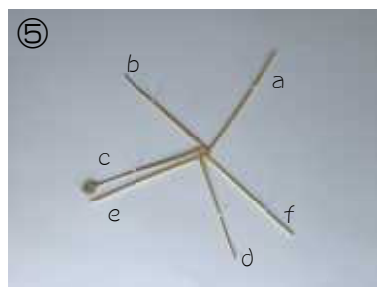
片手で3本の麦わらの中心をおさえ、1番下の麦わら a を折りまげます。



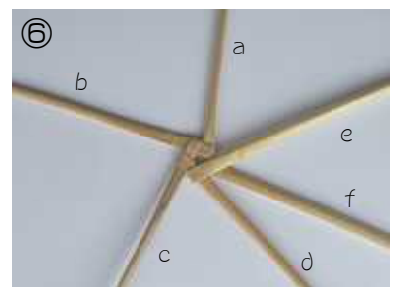
次に、1本ぬいて麦わら b を同じようにように折りまげます。



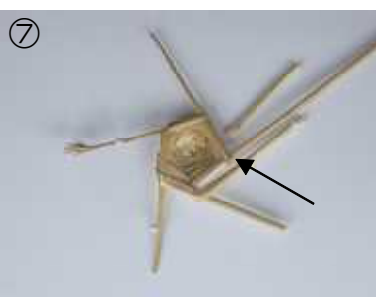
また1本ぬいて麦わら c を同じように折りまげます。指でおさえ、しっかり折り目をつけます。



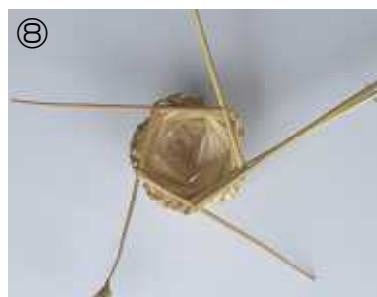
同様に麦わら d を同じように折りまげます。



同様に麦わら e を d の上に、折った麦わらの上に順に (f を e の上に) 折りまげていきます。



麦わらが短くなったら、新しい麦わらを継ぎたします。角で切って継ぎたすときれいにしあがります。



最初は外側に編んでいき、一定の大きさになったら内側に編んでいきます。



最後は三編みにして持つところを作ります。(いろいろ工夫してください)